

令和3年度第3回福島県生涯学習審議会議事録

1 日 時 令和4年2月2日(水) 13:30～14:45

2 場 所 杉妻会館 3階 百合

3 出席者 別紙名簿のとおり

4 議 事

- (1) 福島県生涯学習基本計画(案)について
- (2) その他

5 内 容

- (1) 開会(司会 橋本生涯学習課主任社会教育主事)
- (2) 挨拶

- ① 小笠原文化スポーツ局長
- ② 木暮生涯学習審議会会長

(3) 新委員自己紹介

(4) 定足数確認

- 事務局より

福島県生涯学習審議会条例第5条第3項により、委員は15名であり12名の出席、定足数(過半数)が出席し、審議会が成立することを報告。

(5) 議事録署名人選出

- 議長の氏名により、植田リサ氏、斉藤和治氏が選任された。

(6) 福島県生涯学習基本計画(案)について

- 事務局(渡邊生涯学習課長)より

① 基本事項

- ・ 計画の性格
- ・ 計画の期間

② 現状と課題

- ・ 本県の生涯学習を取り巻く現状と課題
- ・ 県民の生涯学習に関する意識

③ 目指す姿

- ・ 基本目標
- ・ 基本目標の実現に向けて
- ・ 目指す姿とSDGs

④ 施策の展開

- ・ 施策1 人生100年時代を生きる学びの推進
- ・ 施策2 地域づくりにつながる学びの推進
- ・ 施策3 東日本大震災及び原子力災害の記憶と教訓の伝承
- ・ 施策4 社会の変化等に対応した学びやすい環境づくりの推進

⑤ 計画の推進と進行管理

- ・ 計画の推進
- ・ 計画の進行管理

○ 上記の件に関して説明し、以下の質疑等があった。

【植田リサ委員】

今回生涯学習基本計画を策定するに当たり、現状と課題の大きなものとして、ICTの進展が急激に広がっていることが挙げられている。それを踏まえて、施策4(1)「ICTの活用と学習情報の提供」があり、具体的には「オンラインを活用した学習の推進」といった項目が挙げられている。実際に、当方が金融広報、金融教育を推進する中でも、オンラインのリテラシーを持っていない、勉強したいが対面型が多くオンライン型が少ないといった声もあり、この項目を挙げることは非常に重要と思う。その上で、この施策の実施状況を把握する指標として、例えばオンラインに対応している講座数を目標値とすることができるのではないかと。また、実際にインターネットやICT等に関するリテラシーを高めるための講座数などによって、この目標の達成状況が評価できるのではないかと。同様の提案を前回審議会に書面提出させていただいたが、そうした施策目標の管理の仕方について、ご検討の結果をお聞かせいただきたい。

【生涯学習課長】

24ページの施策目標に県民カレッジ受講者数という指標がある。これは県や市町村の生涯学習に関連する講座の受講者数であり、これを毎年確認させていただき、どれだけ実行されているかを調査し目標管理していく。指摘のところについては、今後の毎年の調査の中で、オンラインに対応する講座数を別途集約し、そこでしっかり状況を把握しながら、この審議会場でオンライン講座の浸透具合を報告させていただき、推移を見守りつつ、その浸透や普及を図っていこうということで、第2回の審議会場で議論させていただいた。

【植田リサ委員】

具体的に現時点で、オンラインに対応できている講座数が分かるか。

【生涯学習課長】

まだそこまでは把握していなかったもので、来年度この計画のスタートを機に、しっかりと状況を調査し、まず現状を把握した上で、進めてまいりたい。

【植田リサ委員】

現時点で分からなくても今後調査していくのであれば、オンラインを活用した講座数の「増加」ということを目標とすることができるのではないかと。例えば県民カレッジ講座の中で、オンライン対応講座数の増加という目標を挙げ、来年度、スタートしたときの講座数が9年間にわたって伸びていくことを具体的な目標に挙げられたらどうか。あるいは、インターネットやICT等をテーマとする講座を増やすということも目標値になりうると思うので検討していただければと思う。

【木暮照正会長】

事務局として、市町村生涯学習講座の中のオンライン講座数を次年度からカウントすることを、指標の中にあらかじめ書き込んでおくかどうか、植田委員の意見に対する一つの対応の仕方かと思う。

【生涯学習課長】

まずは、現状把握の部分をしっかりとやってまいりたい。その目標の立て方の議論に関しては、世の中の方向性や本日の御意見も踏まえて考えていきたい。目標に関しては、まず現状把握とその後の推移を見つつ、その後の生涯学習推進の中で進めていくということで検討したい。

【植田リサ委員】

この「ICTの活用と学習情報の提供」の施策目標（指標）が、今の案にはない。この施策の達成状況を県民の皆さんに知らせていく必要があると思うが、今の段階では、指標を示すということは出来ないということか。

【生涯学習課長】

単純にその増加を目指すという目標の立て方がよいのかどうかという議論もある。目標管理を明確にしていく意味では、今のこの案を基本として考えていきたい。オンライン講座の増加等についても生涯学習を推進していく中で、当然推し進めていくこととなる。1つの目標に立てるか立てないかという議論として、まず現状把握から始まるということで、この形でスタートしたい。

【植田リサ委員】

この基本計画の中で、現状と課題として挙げられた4つのうちの1つにICTの進展があり、それに対してどう対応していくのか、それを実際にどのように目標管理していくのかということは、やはりこの基本計画の指標として明記する必要があると思う。もっとも、他の項目との関係で、このままでよいのではないかという委員の方が多いのであれば、それに従いたい。

【木暮照正会長】

委員の皆様の意向をお尋ねする必要があるので、植田委員の提案に関して、委員の皆様から、賛成反対の前に確認ということも踏まえて、皆様から意見を頂きたい。

【鈴木秀子委員】

私も前回同じ意見を提出している。今回施策目標という形になっているので、今出来ていなくても挙げておくことは重要だと思う。そこに向かって、県を始め市町村関係者が、この目標をクリアしようとする努力が始まると思うので、施策目標の中に、IT関係やモラルをテーマとした講座など、リテラシーの部分も含めて入れておくべきなのではないかということで意見を出させていただいた。

【木暮照正会長】

強い反対意見等がなければできるだけ限りの範囲で、その方向で改めるという必要が出てくると思う。ただ事務局の協力がなくて出来ないのでは、その辺りをどうすり合わせるかという話になるが、出来ないものを無理やりやるようには我々も言えない。意見を踏まえて、その辺の趣旨をどういう形ですり合わせていくかというところを、もう一度検討させていただきたい。また、本文中でどのぐらい書き込めるかというところも相談しながら検討したい。明らかなのは24ページの指標として、つまり、オンライン活用講座数の現状が把握されていないということなので、それができるかどうかにも関わってくる。その数値目標等が掲げられるとはっきりすると思うが、短時間でそこまでやれると言われると多分苦しいのかと思う。

【鈴木秀子委員】

基本計画のつくりとして、施策4（1）がICTから始まる。それに対する施策目標として、ICTに関するものがない。まず23ページに施策4があり、（1）から（3）まで書かれている。24ページに施策目標の表があり、4の社会の変化等について書いてある。それと指標の整合がとれてないように感じられる。受講者数の中で把握するというやり方も分かるが、やはり文字としてICTの活用の部分が入ってこないと分かりにくい。現況値がなくても、これから調査するという計画書はたくさんあるので、不思議なことではない。やはり計画として整合を取っていただいた方が、他の方にも分かりやすいのではないかと思う。

【植田リサ委員】

現時点でオンラインを活用している講座数を把握することは、そんなに難しいことなのだろうか。全体で何講座ぐらいあるのか。講座数の中で、既にオンラインでも受講できる数が分かれば、現況値は分かる。その目標値の立て方が難しいということなのだとしたら、それこそ増加させていくという目標でも初めはよいのではないか。もし講座数が難しいのだとしたら、オンライン受講者数でもよいのかもしれない。ICTの活用という目標を、しっかり測れるような指標をここに記載するべきではないか。あるいは、インターネット等に関する技術やリテラシーをテーマとする講座がどのように増えているのかということ、確認できるような目標値を設けた方が望ましいと思う。

【小笠原敦子局長】

一つ補足させていただく。今回県の総合計画、これは部門別計画になっているが、計画に用いる指標については、定性的なものではなく、定量、数字であらわせるものにしていこうという全体的な取組がある。そこで現況値がないと、増やす減らすというところでは厳しいので躊躇した部分があったが、今ほど指摘もあったので、例えば昨年度の実施状況や今年度の現在の実施状況を調べられる範囲で調べ、それをこれから伸ばしていくべき数字に落とし込めるかどうか、事務局の方で検討させていただきたい。

【木暮照正会長】

ではそのような引き取り方でよろしいか。いただいた意見からすると、できる限りこの指標になるものはするということであるが、局長からも補足があったが、全体のバランスの関係から、定性指標は取り入れないという方針なので、定性指標にかなりようがなければ本文に書きこむようにする。十分書き込めてはあるので今さらこの本文にさらにとというのも難しいと思うので、定量化が図れればそのように取り入れる。定性化でそれ以上無理という判断になれば、本文で若干の修正を試みるという程度で、対応せざるを得ないと思う。このあたりは事務局と会長の対応で、お任せさせていただきたい。意見として尊重してまいりたい。

【植田リサ委員】

了解した。新しい目標なので、現状値が把握出来ていないものはありうると思う。ただ、先行き目標達成を管理していこうと考えるのであれば、これから数値を把握していけばよい。定量的に達成状況をはかれる指標があるはずであり、今ないから駄目ということではなく、今後9年間の対応の努力がしっかり分かるような指標として、どういう指標をとるべきなのかも含めて、検討をいただければよいのではないかと思う。これ以降については、事務局と会長の方に一任したい。

【木暮照正会長】

他の委員からも特に強く異にする意見もないので、この会としてできる限り尊重し、その方向で修正を加えるというような対応をとりたい。お認めをいただければと思う。ほかの論点等で皆様から何か意見等があるか。

特にないということで。最終案であり意見が出にくい状況にあると思うが、最後の定例の会議であるので、今後9年間の本県の基本計画について、委員の皆様から手短かに、今後についても視野に入れながら、意見や意向などあれば、1人ずつ順番に伺いたい。できれば1つ2つにポイントを絞って、意向をいただければと思う。

【植田リサ委員】

この基本計画は、本当に多岐にわたる分野に渡っており、事務局のご苦勞に、まず感謝を申し上げたい。これから幅広い分野で生涯学習の機会の提供を行っていくことになると思うが、非常に難しい対応

になると思う。私も含め、県外から赴任して来ている民間企業の福島支店長なども、何とか地域に貢献したいと思っている。県と連携して講座を開くなど、できることがきっと多いと思うので、私どもも含め、ぜひ民間の力も活用いただければと思う。

【大川哲生委員】

改めて読ませていただくと、国や県の文章は読みづらいところがある。生涯学習に関わる人にじっくり読んでもらえるかという、なかなか難しいのではないかと。初めから読んでいって、目指す姿や施策の展開までたどり着けずに、調査のあたりで断念してしまう恐れも感じる。ただこの概要を見させていただくと、そういうことも考えられてつくられたと理解できる。だが、基本計画の方は順番に読むと、1番強く訴えたいところになかなかたどり着けないで終わってしまう県民が多いのではないかと。また、指標のところでは定量評価についての話がありよく分かるが、目指す姿の、ささえる、いかす、つなげる、ひろげる形で展開されている生涯学習に関わるものを数値だけで評価するのは、どうしても個人的に抵抗がある。地域づくりでは、直接的に地域づくりに貢献するというものばかりでなく、生涯学習に関わるいろいろな試みが結果的に地域づくりに反映されるというのはたくさんある。そういった面で、施策の評価をするときに、数値目標だけではなく、いろいろやったことによる効果をいろいろな面から評価していただくと大変ありがたい。

概要の方でもそうだが、基本計画の方にも写真等を入れていただいたのは、とてもよい。企画書などでは、素材サイトによくある「いかにも」という写真を使い、高齢者の方が笑っている写真や赤ちゃんが笑っている写真を使いがちになる。基本計画のように、県内で活動されている団体を紹介していただいたり、写真を使っていたりするのは非常によい。そこで、この概要の方はスペースの問題でなかなか難しいと思うが、例えばこの団体がどういう活動をされているかなど、短くそういうものも入れると、この写真の意味もより出てくると思う。県民に対しても関心を喚起することにつながっていくのではないかと感じた。

【熊ヶ谷頼子委員】

この基本計画を、今この立場でかなり読み込むことができたが、末端で活動し担当する方々など幅広く多くの方にも、この計画が行き届き、県内全域に浸透していくとよいと思った。ICT関係は、末端で活動する者にとっては、なかなかハードルの高い部分もある。知識としても、どう対応し、どういう形で活動に生かしたらよいのか漠然としていて、これからの部分かなと感じている。こういった指標の中でしっかりと明記してもらうことで、やはり取り組んでいかなければならないという自覚が出るのではないかと感じた。今回の県の計画で、9年間の中間の検証を大切にしながら、多くの人たちに理解していただき、未来につなげていただきたい。

【斉藤和治委員】

引き継いだばかりだが、資料を事前配布でいただき初めて読ませていただいた。とてもよく考えられたビジョンだと思った。ただ、9年間という長期的なビジョンになる。KGIは示されていると思うが、ぜひ中間でどういうふうに事業を検証していくのかという中間目標値、このKPIを個別に立てて推進してほしい。そうすると、反省点も見えてくると思うし、これからの改善の余地も見えてくる感じた。このようなビジョンを推進していくことはとても大変で、私たちも十分理解をしている。私たち青年会議所は、実はこのテーマに掲げられているものを、全て1年間展開しているところなので、何かあれば、県の皆様だけではなく、私たちのような青年団体も、ぜひ活用いただければと思う。

【佐々木吉晴委員】

美術館と博物館等については、特に教育普及活動というものが直接的に関わる部分でもある。以前の会議でも話したように、10年ほど前から教え育てるというエデュケーションより、自ら学ぶ方法を身

に付けていく、あるいは意欲を高めていくラーニングという言葉を使って、意識の切替えを行ってきている。だんだんと成果が出てきているが、その考え方と今回の基本計画は十分ひもづけができるのではないかと考えている。ICTの活用についても、コロナ禍でやむを得ずという面もあったが、インターネットを使ったワークショップや講演会に切り替えることもやっている。ただ、単にそこでとどまらないうで、もう一步進んで、GIGAスクールにどう対応していくのかということ、今、学校の先生方とも話し合い、カリキュラムをどんなふうにつくっていくのかということまで踏み込んで話をするようになっていく。いずれ数年たてば、具体的な数値が出てくるので、数値目標も示せるのではないかと思う。美術館、博物館に関して言うと、いろいろな項目にそれぞれ活動がひもづけができるような形になっており大変ありがたい。参考にさせてもらいながら、大きな活動の基本としていければと思う。

その他に関わる部分だが、参考資料に生涯学習課のニューズレターがあった。その裏面の2段目に、NPO法人3・11子ども文庫のインタビュー記事が掲載されている。2段目の真ん中から左寄りのところに「アート中心のワークショップは年4回行われ、東京から一流のアーティストを招いて」という表現があった。正直40年、50年前の表現かと思う。東京からという言い方と、一流のという言い方ではなく、地元のすぐれたアーティストから、環境が育まれていくようなことを目指して何十年もたっている。もう既に東京や一流という時代ではないと思う。東京からとか一流のという言い方をまず、生涯学習課から改めていただければ、県民にも浸透するのではないかと思う。

【佐藤義孝委員】

前回までの意見をよくまとめていただいた。本日出された意見等についても、可能な範囲で対応していただきたい。このコロナ禍の中で、私ども公民館の方は、生涯学習の推進ということで大変苦慮している。皆さんに集まっていたら、学んで、つなげて、リーダーを育成し、地域に還元するという業務になっているので、とても難しい状況になっている。オンライン対応の可能な講座については、できる限り実施しているので、今後は計画の実効性が確保されるよう、進行管理の方をしっかりとっていただきたい。

【鈴木秀子委員】

生涯学習計画の対象が、健康やスポーツ、それから趣味的なものといった個人的なことだけではなく、そこから地域づくり、次世代へと広げた計画であることが非常に分かりやすくなった。先ほど概要版で説明いただいたところで、11ページの目指す姿を読むと、とてもワクワクするような気持ちになる。そこがすごくよかったと思う。それから、冊子の後ろに「県における生涯学習機会創出の取組一覧」を載せていただいた。このことによって、福島県民の生涯にわたる学習機会が非常に多くの分野にあるということが見えてきた。それは、これから進めていく上でとても重要だと思う。また、計画の本書と概要版をつくっていただいた。ただ、概要版もカラーで分かりやすくなっているが、やはり文字が多く、もしかしたら一般県民には読みづらいと思う。一般県民に生涯学習という機会があり、やっていくことがとても重要だということを知っていただかないと、県民が自ら参加するという行動が進まない。なので、概要版よりもっとやわらかいチラシのようなものをつくって広報していただくと、推進する側と、県民の行動とが一緒に動いて進んでいくという感じがする。ぜひ、落ち着いたら、県民向けの分かりやすいメッセージを作っていただきたい。

【鈴木道代委員】

まず、この資料が大変分かりやすく、まとまってきたと思った。ただやっぱり、膨大過ぎるというか、資料が多過ぎるので、どこまで見ていただけるかということを感じた。全部を見ていただけてなくても、それぞれの分野の人が自分の関わる部分を見ていただけるとよいと思う。その意味で、概要もよくまとめていただいたと思う。多少文字が多いかなというところもあるが、こんなにたくさんの資料をこれだけまとめていただき、分かりやすいのではないかと思う。すべてを本当に分かっていたら1番

よいのだが、それはなかなか大変なことなので、それぞれの分野で、目標としていただければよいのではないか。

【長沼千恵委員】

基本計画の概要が、小さな団体の方にも行き渡るとよい。家庭教育支援の団体に属しているが、教育事務所からの施策内容はいただくが、この概要版は今回初めてなので、こういうものを参考にしながら活動もできるのではないかと思った。とても変化の大きい時代で、新しい施策目標をつくるのは大変だったと思う。今、子供たちはGIGAスクールということで、ICTの知識や技術は大人よりも取り入れている。そういう子供たちを取り巻く大人にもICT教育は重要になってきたということ、これを見て感じた。

【平野直樹委員】

PDC Aサイクルを回す上では、最終的にチェックする数字、目標値が本当に大切なことだと思う。一方、東日本大震災や原子力災害の記憶などの伝承を図る上では、数字を追いかけ過ぎるのは少しどうかと思うところもある。特に、東日本大震災・原子力災害伝承館の来客数は、膨大な人数のような気がするが、やはり内容が大切だと思う。一人一人に来ていただき、どう感じたか、その内容を風化させることなく、継続的に来場者が見て感じられる内容と維持を図っていくということが大切である。数字ばかりを追いかけるのはどうかという内容も一部含まれているので、その辺は、この9年間の途中でいろいろ検証をしながら、確認していけばよいのかと思う。

【木暮照正会長】

数値は目安として大切ではあるけれども、それにとらわれすぎてはいけなないと、このような意見かと思う。最後は責任者が自ら、これは政治家のレベルになるかもしれないが、最終的には数字を大事にしつつ、責任者が判断をするということになるのだろうと思う。

一通り出席された委員の皆様から意見、意向、感想などを伺った。これをもって議題1はそろそろ閉じる方向とさせていただきたい。途中でいただいた修正提案に関しては、事務局と相談の上会長一任という形で、引き取らせていただき、この基本計画案に修正を加えたものをもって、期日を決めて知事の方に答申をしたい。大きな変更等あればまた皆様に改めてお伺いするということはあるかもしれないが、おおむねそのような方向で対応させていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

議題1は、これで閉じ、議題2のその他について、事務局から何かあるか。

ないということなので、出席された委員の皆様から議題の提案などあるか。

ないということなので、これで終了とさせていただきたい。

(7) 閉会

以上 議事録に相違ないことを証する。

令和4年 2月2日

議事録署名人

植田リサ



議事録署名人

青藤新治

